

けやき並木周辺地域の エリア・マネジメント導入で 考えられることは

市民が主役の にぎわいづくりが 更に深まると考える



▲休日のけやき並木通り

山上稔議員(市友愛) エリア・マネジメントとは、地域全体の魅力を高めることを目的とした手法だが、市の認識は、市長 維持管理、運営にも配慮したまちづくりを重視する手法で、全国的には町並み形成や地域プロモーション等が展開されているが、その推進に当たり、市民や事業者による主体的な地域づくりが重要と認識している。

議員 けやき並木周辺地域でエリア・マネジメントを導入した場合に考えられることは、都市整備部長 府中駅南口市街地では地域主体で事業が展開されるなど、商業圏やコミュニティ等が新しい段階を迎えつつあるため、一連の流れをエリア・マネジメントとして捉え、地域にまちの管理運営をある程度委ねることで、市民が主役であるにぎわいづくりや地域の公益的価値が更に深まるものと考えている。

他 障害者差別解消法で変わる(その1) ●在宅復帰を
目指して

公共工事優先で実施した場合 市内業者優先の波及効果は 地域経済への波及効果は 受注機会の拡大で地域経済への 波及効果があり重要と考える

備邦彦議員(市友愛) 公共工事入札の発注で、市内業者優先入札を実施した場合、地域経済への波及効果を市ではどのように考えるか。

市長 厳しい経済状況の中で、経済収縮の悪影響を受けやすい中小企業である市内業者の受注機会を拡大することは、地域経済への波及効果もあり極めて重要と考える。
議員 公共工事入札の現状、市内業者優先指名の要望の有無を聞きたい。
行政管理部長 本市では、建

「子ども緊急避難の家」 を図る考えは、なにか

青少年対策地区委員会等と協議し 周知に努めていきたい

須山卓知議員(市友愛) 「子ども緊急避難の家」は、子どもたちが犯罪に巻き込まれそうになった場合に近隣の登録証が張られた店舗や個人住宅に駆け込むことで、地域で子どもの安全を確保する制度であるが、子どもたちや保護者がこの取組を知らなくては、何の意味もない。
そこで、周知徹底をどのように行っているか聞きたい。
子ども家庭部長 各学校単位で教員やPTAを中心に周知に努めており、子どもたちと

ハイブリッド型街路灯の 導入を進める考えは

避難所となるような場所等への 設置を検討していきたい

臼井克寿議員(市政) 地球温暖化やごみの問題など、現代社会は環境に関わる多くの問題を抱えているが、環境に配慮した社会の構築は先進国である日本が率先して取り組まなければならない課題であると考える。そこで、自治体

ができる取組として、環境配慮型設備であるドライミストとハイブリッド型街路灯の導入を進める考えはないか。
生活環境部長 ドライミストについては、夏場の暑さ対策



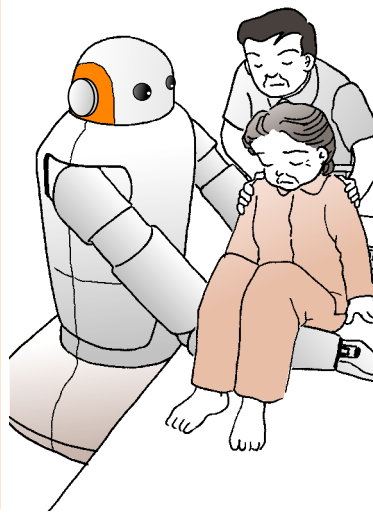
▲ハイブリッド型の屋外灯

介護分野へのロボット技術の導入を 市はどのように考えているか

介護者の負担軽減等を図るため 技術を活用することが 求められていると考える

桑島耕太郎議員(市友愛) 少子高齢化への対応や安全で安心な社会の実現に向けて、介護業界からロボット技術に多くの期待が寄せられているが、介護ロボットに関する国などの取組を市は把握しているか。
福祉保健部長 国は、平成25年度よりロボット

介護機器を開発する企業等への補助やロボットの活用化に必要な実証環境の整備等に関する事業を実施している。
議員 介護分野におけるロボット技術の導入について、市ではどのように考えているか。
福祉保健部長 急激な高齢化の進展に伴い、要介護高齢者の増加や介護の長期化など介護ニーズが増大する一方、介護従事者の腰痛などの問題が指摘されている。
このような中、高齢者の自立支援や介護者の負担軽減を



「健康マイレージ」の 取組についての認識は 自主的な健康づくりの強化に つながるものと捉えている

遠田宗雄議員(公明) スポーツ活動への参加や健康診断の受診等でポイントを集めるの特典を利用できる「健康マイレージ」の取組について、市の認識を聞きたい。また、既に導入している自治体は、市長 市民の健康づくりを促進する新しい取組と認識している。

日ごろの健康づくりへの取組をポイント化することで積極的な参加を誘導し、自主的な健康づくりの強化につながるものと捉えている。
福祉保健部長 市が実施するイベント等への参加により得たポイント数に応じて、割引サービス等の特典を提供する体系が構築できれば、地域通貨的価値としての取扱いは可能と考える。

学校でのアレルギー対策に 教職員が専門医の指示を仰ぐ ホットラインを導入する考えは

他市の状況や 関係機関の意見を得て 研究していく

福田千夏議員(公明) 学校等での食物アレルギー対策では、ミスの起きない仕組みづくりが不可欠と考える。
アナフィラキシーショック症状を緩和するエピペンについては、原則として本人が管理していると聞く。学校が保管場所を把握する必要があると考えるが、市の見解は。
教育部長 本人の管理が難しいなどの事情があれば学校で預かることもできるとしており、各校では保護者と保管場所を協議するとともに、使用のタイミング等を確認し、対応が遅れないよう努めている。
議員 緊急時に教職員等が専門医の指示を仰ぐホットラインを導入する考えはあるか。
教育部長 発症後の初期対応が重要であり、並行して医療機関と連携していくことが適切と考えている。

図るため、手段の一つとしてロボット技術を活用することが求められていると考える。
他 落雷事故を防ぐ基礎知識の普及について

※アナフィラキシーショック：呼吸困難など生命の危険を伴う激しいアレルギー症状